



▲市民が最も多く参加したアメッコ市

のコースは?  
 ①社会科見学 337人  
 ②歴史コース 137人  
 ③自然美 131人  
 ④名物 130人  
 ※A大館駅→秋田犬会館→山田記念館など  
 ※B曲田福音聖堂→老犬神社→多喜二碑など  
 ※C芝谷地→風穴など  
 ※D鳥潟会館→花岡事件の碑→一万本桜など

用確保と、あとつき」の地元就労に対する現状の評価と今後の期待が込められたものと思われます。  
 Q14・市の観光行政で、今後特に力をいれたいことは。  
 ①十和田湖・八幡平国立公園の玄関口としてのイメージも薄くなりつつあるので、県北地区広域観光ルートの開発を 54%  
 ②高速交通体系を機能させ温泉資源を活用した民間資本導入のレジヤー施設中心の観光開発 44%  
 ③きりたんぼ、曲げわっぱ、秋田犬など本市固有の素材を生かした観光産業化に力を入れる 38%  
 ④夏まつりを中心に市民総参加の行事を進め、地元出身者のふるさと指向を図る 29%  
 ⑤雪の特性を生かした風物詩的な行事で、他都市住民との交流を図っていく 13%  
 なお、十二所地区では②の「温泉」がトップになっています。

Q15・あなたはこの一年間、各種観光行事やまつりに参加(見物も含む)したことがありますか。  
 ①ある 77%  
 ②ない 21%  
 Q16・あると答えた方(1123人)に伺います。参加した行事は  
 ①アメッコ市 953人  
 ②花火大会 842人  
 ③鳳凰山大文字 840人  
 ④桜まつり 746人  
 ⑤万人踊り 705人  
 以下産業祭、バラまつり、市民盆踊り、菊まつり、キリタンポまつり、と続きます。  
 Q17・ないと答えた方に伺います。その理由は?  
 ①仕事の都合 58%  
 ②関心がなかった 28%  
 ③好きな行事がなかった 9%  
 ④その他 5%  
 Q18・市には名物、歴史など観光四コースが設定されていますが、ご存じですか。  
 ①知っている 33%  
 ②知らない 64%  
 Q19・知っているのと答えた方(480人)そのコースは?

Q20・夏まつり(万人踊り)を今後さらに盛り上げるためにはどうしたらいいですか。  
 ①気軽に参加でき、特色ある踊りにすべきだ 48%  
 ②踊りに活気を持たせるとか、幻想的な雰囲気を作るなどの工夫を 36%  
 ③ここ数年はこのままでいい 32%  
 以下、子供や男性の参加を多くする、踊り手の着物の色や山車を入れるなどの変化をつける、などとなっています。  
**テーマV(防災)**  
 Q21・各町内ごとに火災予防組合が結成され予防活動をしているのをご存じですか。  
 ①知っている 36%  
 ②知らない 62%  
 Q22・指定された避難所があることをご存じですか。  
 ①知っている 21%  
 ②知らない 77%  
 Q23・知っていると思える方に適切な場所だと思える  
 ①適切な場所だと思える 75%  
 ②遠すぎる 25%  
 Q24・あなたは今回の地震(日本海中部地震)を体験し、特にどんなことが大切だと思われましたか。  
 ①冷静に行動できるように普段からの心がけ 52%  
 ②適切な情報 39%  
 ③初期消火 38%  
 ④避難場所を決めておく 23%  
 ⑤非常事態の連絡先 12%  
 以下、非常持出品の準備、家具などの転倒防止対策、避難訓練と

なっています。  
 Q25・地震の後、不安や不便を感じたことはどんなことですか。  
 ①電話の不通 60%  
 ②余震 53%  
 ③家族の安否 51%  
 ④家財道具の倒壊 19%  
 ⑤水道の断水、濁水 18%  
 以下、家屋の損壊、停電、交通の混雑などとなっています。  
 Q26・あなたは、地震発生時、どんな行動をとりましたか (ベスト5)  
 ①ラジオやテレビのスイッチを入れた地震情報を聞いた 60%  
 ②火を消した 53%  
 ③すぐ戸外へとびだした 51%  
 ④恐怖と不安でじっとしていた 19%  
 ⑤家族を誘導し戸外にでた 18%  
 以下、特になにもしなかった、テレビブルなどの下にかくれた、家財道具をささえたなどとなっています。  
 注・合計が100%に達していないものは残りが無回答の場合、100%を超えるものは複数回答の場合です。

**各種相談日**  
 ところ・市役所会議室  
 じかん・午前9時～午後4時  
 交通事故 11月8、15、22日  
 法律 11月18日  
 社会保険 11月21日  
 家庭教育 11月7、14、21、28日  
 国税 11月25日

調査にご協力いただいた皆様には、心からお礼申し上げます。

**サラ金被害を防ごう**  
 借る前に自己チェック  
 ①本当に必要なお金かどうか。  
 ②親類や知人から借りられないか。  
 ③金利の安い郵便局、銀行、その他の金融機関、地方公共団体の小口資金貸付制度などを利用できないか。  
 ④どうしてもサラ金を利用しなければいけないか。  
 などを自分だけでなく、家族で十分話し合ってみてください。そしてサラ金から借りざるをえない場合も、さらに⑤はたして自分の収入で返せるか。  
 ⑥利息を含めていつまでどのような方法で返すか……を確かめることです。  
 一般的に毎月の返済額が平均月収の二割を超えると、返すことは難しいと言われています。しかし、健全な生活を営むためには、一割以内にとどめておきたいもの。何事も計画性と慎重さが大切です。返すために、また借金などもつてのほかです。いい加減な気持ちや計算で借りようとするのは、貸す方にも迷惑をかける結果になります。  
 サラ金問題でお悩みの方は次の相談窓口にご連絡し、専門的立場から措置してもらってください。  
 ・秋田県商工労働部商工課  
 ☎0188-60-1686  
 ・サラ金問題対策センター  
 ☎0188-62-2103  
 ・市役所市民生活課  
 ☎49-3111内線214